



データベースをiSeriesに集中させる開発方針

白衣・ユニフォームの中堅メーカーである住商モンブランは、1992年に従来使用してきたNEC汎用機を撤去し、iSeries (AS/400) へのリプレースを実施した。この移行時には、経理システムについては汎用機プログラムのコンバージョン、販売管理システムは業務パッケージ「D-PACK」をベースとする再構築で対処し、その後、商品別販売実績照会システム、生産管理システム、生産計画システム、販売系の自動FAXシステムなどを相次いで開発してきた。iSeriesの導入以来、システムの企画・

構築・運用を担当してきた横田昌宏 総務部IT企画課課長は、同社のシステム化の歩みを次のように振り返る。

「iSeries導入からしばらくの間は、業務部門のニーズに応じて、優先順位をつけながら徐々にシステムを開発してきました。その中で、データベースはiSeriesに集中させる方針で対処してきたため、結果的にERPのような、業務アプリケーション間がシームレスに連動するシステムを整備することができました。営業面の基幹業務的な部分の基礎となるシステムは、おおよそ構築できたと考えています」

ところで、白衣・ユニフォームのビジネスは、商品企画力とともに、販売代理店よ

り発注を受けてから配送完了までのリードタイムをいかに短縮するかがポイント。

同社では元々、販売代理店に対して受注時の即日発送を約束していたため、約800社ある販売代理店から電話・FAXなどで注文を受けると、それらを即座にデータ入力し、出荷依頼データとして物流アウトソース先の営業倉庫へJCA手順で送付していた。

ところが年々、注文件数が多くなり取り扱う商品量が増えると、営業倉庫へデータ送付する回数を増やす(1回あたりの通信時間を短くする)だけでは対処しきれなくなり、さらにシステム面の弊害も目立つようになってきた。

1つは、営業倉庫へ出荷依頼データ

を送付後、注文データに変更や修正が必要になった場合に住商モンブラン側のシステム上では送信済みデータの変更がきかない仕組みであったため、「営業倉庫との電話やFAXによるやり取りによって営業倉庫側でデータを修正・変更してもらうなど、双方で周辺作業が増えた」(横田氏) ことである。もう1つは、「輸送代を商品と一緒に送られてくる請求書に明記して、同時請求してほしい」という販売代理店の要望に応えられないシステムであったことだ。「輸送代の請求が後日の別途請求となり代理店から何度も苦情が寄せられました」と横田氏は振り返る。

業績拡大の影で、システムが足かせとなりさまざまな業務上の不備が生じていた。それもこれも、JCA手順で2400bpsという低速の通信回線であったための弊害である。

そこで、営業倉庫との間の物流システムを一新すべく検討に入り、インターネットを利用することとし、改築のためのツールの選択に入った。

「結果的にたどり着いたのは、ランサ・ジャパンのLANSA Integratorでした。過去に同社のCS-Builderを使って商品別販売実績照会システムを開発したことがあり、その後も同社から継続的に製品や技術に関する情報を得ていたため詳しく検討し、最適と判断し選択しました。特に、それまで利用してきたJCA手順まわりのRPGプログラムをそのまま使えることが大きな決め手となりました」(横田氏)

iSeriesをセンターにする物流システム改築

通信環境の一新にあたり、営業倉庫側は最初は難色を示していたが、LANSA Integratorのデモやエス・イー・ラボ (LANSA Integrator販売代理店) の営業マンの説明、さらに住商モンブ

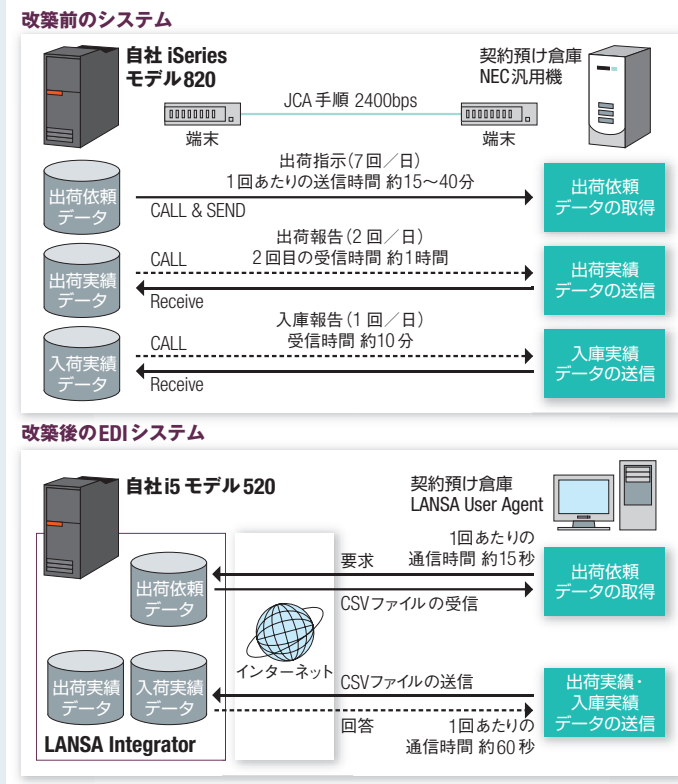
ランからの業務改善提案などによって納得し、通信環境だけでなく周辺システムの再編にも踏み切った。

新物流システムは、住商モンブランが出荷依頼データをCSV形式で作成しiSeries上に配置すると、アウトソース先の営業倉庫がそれをダウンロードするという仕組みとした。営業倉庫からの出荷

実績や入庫実績のデータはCSVファイルで住商モンブラン側のiSeriesへ送信される。出荷依頼データは従来、住商モンブラン側のiSeriesから営業倉庫側のNEC汎用機へ送付する形態だったが、新システムでは、営業倉庫側のPCが住商モンブランのiSeriesへデータを取りにくるという構成に変更された。「iSeriesを物流システム全体のセンターサーバーとする改築」(横田氏) である。

これにより、営業倉庫側はPCとインターネットさえ利用できれば、いつでもどこでも新物流システムを利用できる。住商モンブラン側から見れば、アウトソース先の物流会社を自由に選べる環境を整えたことになり、「今後は、物流会社を戦略的かつ弾力的に使い分け、物流面においても競争力のある体制を確立したい」(横田氏) 考えだ。

新物流システムの導入により、1回の出荷依頼データの総送信時間は約60分以上から1分以内に短縮され、懸案



図表 改築前・後の物流システム

住商モンブラン株式会社

COMPANY PROFILE

- 設立: 1950年
- 本社: 大阪府大阪市
- 資本金: 8000万円
- 売上高: 60億円
- 従業員数: 70名
- 業務内容: 白衣(医療・食品用)、サービスユニフォームをはじめ、テキスタイル二次製品および各テキスタイル素材の企画・生産、販売
- http://www.scmb.co.jp/

LANSA Integrator採用により物流システムを一新

Web-EDIを活用し、関係会社との業務をスピードアップ

Point

- データベースをiSeriesに集中させ事実上のERP環境を整備
- JCA手順と低速通信回線による物流システムの問題が顕在化
- インターネットを利用する新物流システムへ改築
- LANSA Integrator利用による効率的な短期開発を実現

横田昌宏 氏

総務部IT企画課 課長



の課題はすべて解決した。また、通信インフラにインターネットを使用したことにより大量のデータを送付できるようになったことから、出荷依頼データ中の住所や名前のケタ数を増やしたり、住商モンブラン側で商品マスターを一元化し、相互にマスター情報を持ち合うことによる弊害もなくなった。今後は、販売代理店向けのB2Bシステムなどに「今回の経験を活かす計画」(横田氏) という。

プロジェクトの進捗

1992	NEC汎用機からAS/400へリプレース
1999	商品別販売実績照会システムを開発
2000	生産管理システム開発
2002	生産計画システム開発
2003	販売系の自動FAXシステム開発
2004	新物流システムの構築に着手
2005	新物流システムをスタート